

## 第2回「まちづくり懇談会」概要

開催日時：平成21年5月15日（金） 19：00～

開催場所：韮崎市民会館4階大会議室

### 【企画財政課長（司会）】

これよりまちづくり懇談会を始めさせていただきます。本日は、「韮崎ルネサンスとまちづくり」というテーマでアザリア記念会の皆さまにお集まりいただきました。それでは、横内市長からごあいさつをさせていただきます。

### 【市長】

どうも皆さんこんばんは。お仕事を終わってからお集まりいただきありがとうございます。アザリア記念会の皆さまには保阪嘉内と宮沢賢治につきまして活動していただきまして、花園農村の碑もできましたし、6月には岩手大学のほうで展示会も行われるとのことですし、活発にご活動いただいておりますことに感謝申し上げます。先日、知事から電話がありまして保阪さんのところにある宮沢賢治の手紙を文学館のほうで展示という話でしたが、どうも保阪先生のところへ話がいったようでありすけれど、「あれは韮崎からは出しません」というようなことも向こうも聞いておるようですけれど、保阪先生がそうであるから韮崎でも強くなるとかしたいということは言うておきました。長話になって申し訳ありませんが、私が市長に就任して一番の目的は地方分権が進んでいく中でまちのアイデンティティとか自主性をもっていかなければいけない、そして都市間の競争になってきますから、まちの独自性といったものを出していかなければならない。それには昔からある地域の文化を大事にしていけないと、その文化をないがしろにしていくということは、そのまちが廃れていく原因になっていくということで、今の韮崎市にある文化を大事にしていかなければならないという、文化にもいろいろあります、昔からとれている穂坂のぶどうとか、釜無筋のおいしい米もあれば、農産物といったものもありますし、また、歴史的には武田家発祥の地であるし、終焉の地であるし、韮崎には保阪嘉内さんあるいは実業家では小林一三とか小野金六さんとか大変な人たちもいる訳です。そういうことも文化である訳でして、そういったものをどんどん掘り起こして行って韮崎のまちづくりに役立てていきたいという気持ちで今取り組んでいますので、皆さんにはどうかご協力をいただけますようお願いを申し上げます。今日は皆さま方、いろいろな忌憚のないお話をお伺いして、私でお答えできるところは私がお答えしますが、あと教育課長もおりますので、答弁ということではなくてこういった方向だとかこうしたらよいといった忌憚のないお話でやっていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

### 【企画財政課長】

どうもありがとうございました。会議を始めるにあたりまして自己紹介と、皆さんは同じ会の仲間でご存知かと思いますが市長と教育課長がおりますので簡単な自己紹介をして、その後フリートークに入っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 【参加者】

どうも皆さんこんばんは。今お話が出ました、保阪嘉内の息子の保阪善三と申します。市のほうの役は昔、区長というのをやっただけで外は何も就いていません。ただ、長く高校教諭をやっておりまして、定年退職、その前は山梨日日新聞社に10幾年か勤めまして、年金は共済と厚生年金の両方からもらっています。うちは知事さんのお母様の故郷の鳥居でございます。市長さんのご母堂は療養中だそうですが、その姉さんのほうの保阪じゅんいちさんのほうの母も友だち付き合いをさせていただいております。ここにはみえませんが、いずれみえます林紘子さんのお母さんの小林ますさん、その方なんかともお世話になりまして、婦人会なんかでお付き合いをしましていろんなことで困

縁は非常に深く、こういう年にたまたまこういう計画が持ち上がったというのは非常にありがたいことだなと思います。よろしくをお願いします。

#### 【参加者】

ひき続きまして保阪庸夫でございます。善三の弟でございます。市との関係は公平委員とか教育委員とかといった役を仰せつかって皆さんとご一緒になったことがございますので、考えてみますと、ずいぶん昔から皆さま方、多方面にご迷惑をおかけしていた訳でございます。今日は久しぶりにえらくなった昔の皆さんとお会いしてなんとなく楽しい感じがいたします。あそこにいる私の仲間たちの力を借りまして先年から顕彰の活動をしている訳ですけれど、一部の活動ということではなくて葦崎のまち全体の大きな運動のひとつとなるようこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

#### 【参加者（記念会会長）】

アザリア記念会の会長をさせていただいております清水一でございます。よろしくお願いいいたします。市長さんをお待たせしてしまつて大変申し訳ありません。私の肝を冷やすためにこの人たちがそうしたのだということで、私の寿命が2年ほど縮みまして、そんな作戦ではないかというふうに思っておりますが、大変失礼をいたしました。大変、私たちとの話し合いの機会をお作りくださいませありがとうございます。よろしくお願いいいたします。

#### 【参加者】

どうもこんばんは。アザリア記念会事務局長の向山です。北東小学校に勤務しております。前は穂坂小学校、その前は葦崎小学校だったのですが、やはり地域のことについて私も目を向けていこうとやったことをやっています、特に私の父が保阪先生と葦崎中学校の同級生で、私の父は途中でやめたのですが、そんな因縁もありまして、ずっとこのことは気にかけていたのですが、生誕100年でもやりました。葦崎文化ホールが1100人も入っちゃって大騒ぎになったイベントもやりましたけれど、110周年、地道に活動しようということで一緒に会を立ち上げまして、そんな点で取り組んでいますけれど、たまたま北東小に2年前に異動してきまして、良いところにきたなと思いました。保阪嘉内の母校の藤井小学校のあれになりますし、うちの校長の作地真校長の仲人は善三さんですし、やはり地域のことができるということは本当に素晴らしいことだと、また、6年生の国語の授業をさせてもらって、宮沢賢治のお話がある訳ですが、それを保阪につなげて話をしたりして非常にこの地域のことをこの地域の子たちに教えていくというのは大切だなと感じています。よろしくお願いいいたします。

#### 【参加者】

遅くなって申し訳ありませんでした。私のことを市長さんはよくご存知かと思いますが、この会ではアザリアという広報誌の担当をしております。もうひとつ葦崎市の新しい図書館を考える会という会でも何度かお目にかかったり、お願いにあがったりしたのですが、このことはいつか伝えたいと思ったことがひとつあって、何度も12年位この図書館のお願いをしている中で、始めて市長さんという人や教育委員会の人に呼ばれて、話を聞いてあげるよって言われてとてもうれしく思いました。本当にこうやって直接、ざっくばらんに話したいという気持ちはあったのですが、なんかいつもけしかけて、これをお願いしますということ話しかできなかつたのですが、話せて市長さんの中でも文化の拠点となるような、そうしたまちづくりをしたいんだということを聞いて、そうしたら図書館が中心になって、その特色ある、アザリア記念会が今持っている保阪先生の資料なんかをおいていただいて特色のある図書館づくりがスタートできたら良いかなと思います。よろしくお願いいいたします。

【参加者】

遅くなりすみませんでした。記念会の会計をやっております新村と申します。県の酪農試験場のほうに勤めて何年かになります。韮崎市民になってからは十何年かになります。韮崎を良くしていこうと思って、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。今日はよろしくお祈りします。

【参加者】

保阪庸夫の娘で新村と申します。隣は私の主人です。本当にこんな市をあげて、市長さんを交えての話し合いの機会が持てるような日が来るとは夢にも思っておりませんでした。先日、お宝鑑定団という番組にでましたら、やっぱりすごく反響もありましたし、ここ最近では毎週のように県内外からうちを訪ねて宮沢賢治や保阪嘉内の資料を見たいというお客さんがみえて、とても日本中から注目されていることだと思います。私はお茶番がとても大変で困っています。何か図書館とかそういうことが実現できたら、本当に日本中から注目される韮崎市になると思うので、どうぞよろしくお祈りします。

【企画財政課長】

どうもありがとうございました。それでは、これからフリートークということでお願いしたい訳ですが、今回のテーマにつきましては“韮崎ルネッサンスとまちづくり”という堅苦しいものですが、今の自己紹介で場がなごみましたので、これから概ね目安として1時間を予定していますので、そのへんをご承知願いたいと思います。それではこれから始めたいと思います。

【参加者（記念会会長）】

今日は、さきほど新村さん、嘉内のお孫さんから話があったように、全国的に注目されているという大切な文化財でございますので、韮崎市として何とか保存といいますか、保存したものを多くの人に見ていただくのには是非、市のほうでお力添えをいただければと願っております。それにつきましては、それぞれがいろいろ思いを持っておりますので、これから順に語らせていただきますけれど、よろしくお祈りします。

【参加者】

若しよろしければ手紙のことについての経過についてお話させていただきますが、よろしいですか。筑摩書房というところから「宮沢賢治友への手紙」というのが発刊されてから40年が経ちます。40年前にその手紙をなんとか処理しなくてはという思いで、実はそれまで解剖学ということをやっていたのですが、いろいろな役職をおしまいにこちらへ帰ってきたのがスタートでございます。その頃、賢治文学の研究者で小沢としろうさんという方と今は、山梨学院大学の副学長の三上けい子さんという方と、その方も熱心な研究者でございまして、そんな人たちのお力も借りまして、そして、父親のところに父親のところへ賢治からきていた手紙73通を筑摩書房というところから本にしたのが発端です。その大勢の方々が私のところを訪ねてきて、いろいろと賢治研究会とかあるいは賢治記念館というのは花巻の宮沢賢治さんの弟さんが最初開かれた、花巻市の肩入れで整った施設ですが、それまでは賢治の残されている作品とか原稿とかみんな薄暗い宮沢家の裏手にある土蔵の中に半分湿っていた状態であったのですが、弟さんが箱やかばんを作ったりして、順繰りに整理されていった訳なのですが見せる状況で経過していました。賢治の友への手紙を本にしまして出したことがひとつの契機となりまして宮沢家あるいは宮沢家のまわりにいる研究者の皆さん方がもう1回家捜ししようということで、それが賢治記念館の原稿類その他の整理の実は火付け役にできたのでした。そういう意味でも賢治研究に韮崎が大きな寄与をすることになっています。前々から韮崎は賢治研究に寄与しているのだと威張っても良かったのです。ただ、これが個人で持っていてひっそりしていましたから、こんなものは賢治記念館にみんな持って行ってそこで飾ればいいとかといった変な意見まであったのですよ。その意味もわかりますけれどね。だけど、あくまでも賢治さんが保阪嘉内に向かって

自分の気持ちを打ち明けるためによこしてくれた、即ち花巻の人が蕪崎の人を頼ってくれた手紙ですから、それを花巻はもとより県立文学館に収めてしまうということもできないということで今まで蕪崎でひっそりしていたのが経過でございます。

【市長】

先生のところには前から宮沢賢治の手紙やはがきがあることはわかっていたのですか。

【参加者】

もちろん、我々の一代前のすなわち保阪嘉内の妹や弟たちも知っていたはずです。私の母親ももちろん知っていましたし。ただ、それをもう一步踏み出して本にしようとか宮沢家に連絡しようとかといった突飛なことは考えつくような人がいなくて、保阪家の先代の人はいおとなしい人ばかりで。それで昭和41年まで保阪家の文庫村の片隅に眠っていた訳です。

【市長】

文庫村？先生のお父さんの時代から書籍がいっぱいありましたね。

【参加者】

日本の書籍だけでなく中国の書籍やもちろん古いものではないけれど外国語の本とかたくさん今いってもあります。

【市長】

山日には何年くらい勤めていたのですか。

【参加者】

正確には17年と10ヶ月です。

【参加者】

それは善三さんのことで、保阪嘉内はだいたい正式に勤めたのは1年ちょっとくらいです。野口次郎さんが甲府中学校の4級後輩で頼ってきて、時々に応じてお手伝いに行くという関係は結構続いたようです。

【参加者】

そんなことで現在残っているのが木喰上人の残した仏像を有名な人形の研究家の方と一緒に、その後をついて、そのほかにもお二人ほど優秀な写真家とかいらっしやったのですが、浅川巧さんもいらっしやったのですが、そうした人たちと一緒にこの辺りをぐるぐる回って木喰研究の発端を作ったその一人でもあった訳です。

【市長】

私なんか古い手紙はやたら捨てててしまっていますが。先生たちがいる頃から宮沢賢治という名前はだいぶ売れていたのでしょうかね。

【参加者】

私が一番危惧しているのは、そうしたけしからん考えの人がいることです。文学館に寄付してしまえとか賢治記念館へ持って行って飾れとか、とんでもない話です。

### 【市長】

それはやはり葦崎に残して葦崎で展示するようなどころが出て、葦崎で保存してというのが一番ありがたい話だというふうに私は思いますけれど。結局、2月にルネスの話が持ち上がったのでそちらに話がいくだろうと思うのですが。今、ルネスのほうはあそこにいる企画財政課のほうを担当しているのですが、3月議会で議会のほうから良く市民の声を聞けという話がありまして、最初2月の時点でルネスの人たちがあそこを壊して平地にするから買ってください、という要請がきたのですが、それはありがたい話だということで、市のほうでもそういう方向でいきましょうという返事はしていたのですが、ちょっと議会へのもっていき方が下手だったかもしれません。議会のほうからそれは良く市民の声を聞いて、あの土地を買うことには反対という議員はいないのでね。アンケートなんかをとると民間に任せて民間でどんどん開発してもらえというのは少ないのですが、大勢としては買う方向でいくべきであろうけれども、ただし一番の問題がやはり今ある建物を壊すというのがやはりもったいないという気持ちの市民の多いと思います。早くにこんなことを言うてしまうとあれかもしれませんが、一番悩ましいのが、今の建物をあのまま中を改造して使うということになった時に、4つのフロアがありますね、1階、2階、3階とありますけれど、あのフロアと裏にバックヤードというのがありますが、あれを全部寄せると4千7百坪もあるのですよ。ものすごく広いフロアになるのですよ。バックヤードは使わないにしても、除くと3千坪で全部使わなくても良いのではといった考えもありますし、いずれにしても利用方法をどうしていくかといったによっても違ってくるとは思いますが、もしあのフロアを使った時の維持管理費というのがものすごく心配になってきます。そういったものがあるから、また、ああいう商業用の建物で造られていますから、改造するとかいうともものすごく使いづらいといったことも出てくると思うのですよ。そういったことで、ならばじゃあ、あれは壊して平地にして新たにどういうふうなものになるかわかりませんが造ったら、というのが私たちの最初の考えでした。一番問題は良い点と悪い点があるのですよ。今のものを使うとなるとすぐ中をリニューアルして図書館なんなり何かを作ることができる、けれども維持管理費がどれ位かかるかというのは、あれだけの大きな建物になるとエスカレーターもとってしまわないと、あれも電気を食うのですね、エレベーターは障害者の方がいるから無ければ困るのですが、維持管理費がかかる。ただ、利点とすればすぐに改造すれば使える。あれを潰して更地にして新規に建てるとなるとこれは資金の問題がでてきます。これは何年後になるかということになるとこれは何年後、今の景気の悪い時に借金までして造るのかどうかということになるとここらへんも難しい問題で、じゃあ何年後かということになってくると5年後になるか6年後になるかはよくわからないということになってきます。ただし、新しく造るものについては、やはり目的をもってこうやりますから将来にわたっての維持管理費についてはそんなにかからないものが出てきます。どっちもどっちと言いますか、非常に難しい判断が要るわけです。

### 【参加者】

当局としては誠に頭の痛いことですね。

### 【市長】

まあ、どちらでどういう格好で買うかという結論は9月の議会までには結論を出したいというつもりで議員さんたちに提案しようというつもりで、今アンケート調査とか庁内ではプロジェクトチームワーキンググループを作ってやりはじめてはいますけど、そういった点で皆さん方の考えはどうなんでしょうか。

### 【参加者】

先ほど美佳さんのほうでありましたが、いろいろお客さんが毎週というくらい来ていまして、だからずっと取り組んでいて保阪先生が昨年12月に岩手大学のほうで講演されたのですが、そのご報告も申し上げたいのですが、盛岡での歓待ぶりというのはすごいもので、次から次へとやっぱり保阪嘉

内という人物に対する評価はどんどん変わっているなという気がします。だから最近来るお客さんも何て言っているかという宮沢賢治さんに素晴らしい影響を与えていただいた保阪嘉内さんですよというふうなことで、保阪嘉内あつての宮沢賢治なのだというふうな評価をしてくるのですね。今、盛岡タイムズというのがありまして購読しているのですが、保阪嘉内の短歌っていうのが書いてありまして、望月善次ぜんじ先生、甲府一高の出身で岩手大学の教授から今盛岡大学の学長をされている方なのですが、その方もこの前お見えになって、今とにかく短歌のことについて、いろいろ宮沢賢治と石川啄木の短歌について特集をやっていて、今度は保阪嘉内の短歌をやりたいということの特集で週3回やっているのですね。そういう先生も保阪嘉内をもっときちんと勉強して、宮沢賢治あつての保阪嘉内でなくて保阪嘉内そのものを取り上げていきたいということをお話されていまして。まあ、いろんなお客さんが来て、中にはバスできたりして、とにかく碑を見たいというのがあって、いろんな方がお見えになるのですが、やっぱり駅の前にそういうふうに葦崎のシンボルとして図書館とか資料館ができるといいねという話で盛り上がります。とにかく賢治のファンというのは計り知れない人たちで、私たちの活動はささやかなのですが、いろんなところからどんどん話がきて、その中でも本当に保阪家がこれだけの資料を保存してきたという意味というのはすごく大きなものがあって、一昨年に山梨県立文学館でひとつの文学館の会場に出たものは、全部この2軒のおうちにあったものが出てそれがひとつの展示になった訳です。それを全国から見に来る訳ですからその価値は高いと思います。ますます我々が出ていったり広げていくことによって、ますます保阪嘉内の評価というのが再認識されているなど感じています。ちなみに甲府一高の同窓会誌なのですが、先日、同窓会総会がありまして、この中に先達に学ぶという項目がありまして、甲府中学校から甲府一高の先輩にどういう人がいるかということで、特集が保阪嘉内ですよ。農村の理想を目指した。それで載ってまして、その頃は葦崎中学はなかったから甲府中学校だった訳ですが、いろんな面で県内のいろんなところから注目されていると思いますし、来ると保阪先生のお宅でいろいろ資料を見せてもらったり、お墓も実は市長さんにも見ていただきたいのですが、ありまして、賢治とのモニュメントみたいのがあるのですが、賢治と嘉内の短歌を刻んだのを作っていただきまして、その碑を見て、善三さんのお家に行っているような資料を見て、銀河鉄道展望公園に行くと植わっているぎんどうや中央線の様子を眺めたりと、そうしたひとつのコースみたいで、中には風の又三郎の原点は八ヶ岳だから八ヶ岳のほうに行きたいと言うので連れて行ったりするのですが、そして地元に戻って八嶋で宴会をすとか。まあ、いろんな形で注目を浴びているし、そうしたことができれば葦崎を訪れたいという人たちが本当にたくさんいるなど感じています。

#### 【参加者（記念会会長）】

ちょっとそこで、後から来た方の自己紹介をお願いします。

#### 【参加者】

今日は文化ホールで津軽三味線を今年からワークショップを始めまして、今日は開校式がありまして、先生に表敬しなくてはなりません、遅くなりましてすみませんでした。林でございます。どうぞよろしくをお願いします。アザリア会の副会長です。

#### 【参加者】

北杜市のほうから来させていただきました。明野子ども美術館の館長をさせていただいております松崎春子といいます。この会に入れていただいたのは、明野子ども美術館で毎年、明野子ども美術館の賢治祭というのをしてまして、今年で11年目になるのですが、11年前に保阪先生にお会いして、もともと私がここに引っ越してきたのは、たぶん保阪先生がここに居るだろうと思って、何とか探したいなと思って、ここに東京から引っ越してきたのですが、そうしたら運よくその年に出会えました。そして、有名になる前の時に保阪嘉内さんに賢治と交流があったということを知っておりましたので、そういうまだ価値の確定する前の青年期の方の手紙や研究している保阪先生のお話をぜひ聞

いて、子育てや青年たちの何か参考になるお話が聞けるだろうと毎年、先生にお話していただいた賢治祭も11年目になりました。そんな関係で仲間にまぜていただいて、一緒に林先生のあとをついていった副会長は名前ばかりでついていくばかりですけれど、またいろいろ教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

#### 【参加者】

図書館の事は何度も何度もお話ししてあれなんですけど、今、図書館っていろんな方向性に分かれていて、前の様に本を読むってだけの感じではなくなって、文化の交流の場所に変わりつつあるなという感じはするんですよね。展示品の場所はあっても良かったと思うのですが、駅のあそこの所にルネスの話聞いた時に、あのままに建ってしまうのかな？新たに建ててくれるのかな？って思ってた世の中がこんな不況の時だから、わがままだとは思いますが、私たちは、構想書を作った時に確かコンサルタントが入って、「どんな事でも言いなさい」って言われたので凄いい構想書が出来上がってしまって、言った私たちも「何でも言えて言うので、一番素晴らしい事を言ってるんじゃないか、本当にこんな蕪崎で移動図書館がある図書館が造れるのかな？」って不安に思っただけに理想の詰まった図書館の構想書です。でも一番ベストなのは場所が駅のそばってことです。どこでも叶う事の出来ない、県立図書館がようやくあそこに造りますけど、どの場所でも駅のそば、交通公共機関のそばに造ることはまず無理だと思います。でもあんな良い場所で、できれば子どもの図書館祭りが出来るホールが欲しいとか、少し緑地帯が見える場所が欲しい、窓を大きく開けてもらいたいとか、色々なことを考えて「あれで大丈夫かな？あのままを造り変えるのはどうなのかな？」っていうふうに感じます。本当は建て替えて下さいって言いたいですけど、それは無いものねだりでバタバタしている子供と同じなので、どうなのかな？って思うのですが、本当に伸び伸びとした図書館を造るとすると、緑地帯の見える、子供のフロアがある、小ホールを持つ、って言うとうなのかな？っていうふうには感じます。もう一つ、私がいろんな図書館を見学した時に、企業とコラボしている図書館もあるんだなというのを感じました。小さなレストランや本屋さんが図書館の外にあり、図書館で読んだ帰りにお母さんに本を買ってもらうこともある。図書館とホテルがコラボしている所もあって、町田の図書館は「エルシー町田」と言ったシティホテルで、かなりグレードのいいビジネスです。企業が賃貸の料金を払っている。全くのサービスの場所ではなくて、少しお金を生み出している。アメリカで一番大きいボストン図書館もホテルと一緒にだと思えます。ホテルと一緒にだとかまた違った図書館の組み合わせも頭の片隅に入れておいて検討して頂きたいと思えます。でも、ようやく図書館という声が聞こえて嬉しいと思えます。宜しくお願いします。

#### 【参加者】

ホテルの候補はありますか？

#### 【市長】

確かに民間との考えも一つの案としてはあると思えますが、駅前と言ったら民間でも相当乗ってくる可能性は十分あると思えます。ただホテルの質によっては入る客質、程度の悪い客室だと図書館と一緒にとなると……。それも一つの案だと思えますね。ホテルに限らず、蕪崎市内だけでなく色々な専門家の方々にも相談しながら、民間とのコラボの場合はどういった業種の方が良いのか等を考えていたり。一番手っ取り早くて良いのは現在の建物をそのまま使用出来ればだが、使いきれぬかどうかと維持管理費と商業施設で柱の間隔が広いということが問題ですね。そこらへんが使いきれぬとは思いますが、その場合どのようにリニューアルするかが問題ですが、専門家に依頼すればすぐに出てくるでしょう。例えばの話ですが、あのスペースの使い方ですが、保阪先生のものもあるし、あのスペースをどうやって埋めるたらというと、子育て支援センターや老人の憩いの場に使うとか、坂井遺跡博物館や民俗資料館とか単純にスペースを埋めるとしたらそのようなことも考えられますが、例えば、緑がないというのであれば、今、都会では屋上の駐車場を緑にしているのとか、地下は水

耕栽培で利用したらどうかとか、いろんな案として言っている訳ですが、あのスペースすべてを使おうと思えば、おそらく冷暖房もなければ冷暖房をつけろという話も出てくるだろうし、まあ非常に難しい話です。だいたいあの建物を窓を多く取ろうとするとこれはまた難しい。大きな工事費がかかってくるのでどうしたものかと。まあ、作り変えるというのが一番理想かもしれないけれども、さっき言うように財政的な面とか図書館の設計の人につけてもらいたいものを全部あげなさいと言ったらどんどん大きくなっちゃったということでしょう。だから新しい図書館を造りましょうという話になれば要望が大きくなって20億、30億、もっとかかってしまうという話になると難しくなります。

【参加者】

でも最初から小さいスペースでと言われたらそれで考えられるんですけど、あの時は場所は分からないけれど、とにかくどんどん言って下さい、って言われたからどんどん大きくなってしまった感じがあります。

【参加者】

時代の流れと言うか、物事にはその時代を背景にしたものが流れていくってことがあると思うんですね。最初に構想委員会をした頃はまだこんな風に疲弊した時代ではなく、まだちょっとバブルが残っていて、何でもいっていい感じで言えたんですけど、私は最初県立図書館の審議委員している時に、県立がとても駐車場がなくて建て替えて話が出てきていた時に西武が撤退するから「あそこにどうだ」って話があったんですね。そしたらあそこでは重さ的に無理だって話を聞いて、私は頭に入っていたんですね。でそれが県立は無理だって事で今生涯学習センターになっている訳なんですけども、ルネスのあの建物も無理だって思っていたんですね。そしたらこのところ色々な方にお話を伺うと、改装って話が出ているんだよってことで、「あっ、改装で出来るんだ」って言うことにちょっと頭を変えてみたら、あの場所っていうのは、私たちはその前に街づくりでカタクラの跡地で、図書館も欲しいし市民のものにしてもらいたいってことで一生懸命やってきたんだけど、それがまあ叶わなかった。商業のああいうものになってしまったのですけれども。建物自体が全部向こう側を向いているわけですよ、背中を向けて。駅前に来てちょっとお土産を買うにも、蕪崎ってどんな町なんだろう？って分かりたいにも、そういう物が全然ないんですね。だから、今若し、図書館もあそこに入れるとしたらその中に例えば蕪崎の物産を売るところとか、例えば市民が作ったり書いたりしたものを展示する。例えば文化協会と連携をとってグループの展示を常時交代ですとか、そういう場所を造るとか。それから入り口にある軽食の喫茶店も駅前には絶対に必要なですよ。旅に来た人たちがちょっとお茶飲んで行くにも駅のパン屋さんしかない。そういうものも複合して図書館も出来て子供のものも、憩える場所も出来たりするということになれば、駅前だったらおばさん達がバス乗って行くにも、あそこはやり方によればうまく使えるかな。最初に時代の流れがあるって言ったけど、結局今潰して建てるとなれば世の中の反感を買うと思うのですよね。今なんで？ってことになると思う。だけど図書館をほしって言ったのは私たち20年位やっているのですよ。ずーっとここまで我慢してきてもっと我慢してやってたらもう死んでしまうかなって。時代の流れでもうちょっといい時代になっていて図書館がもうあそこではダメってなったら立て替えてもらう、次の世代に任せようっていう感覚で段々私はこの頃変わってきたんですけどね。あそこは場所がいいので、絶対に有効に使わないと損。もったいないと思います。

【参加者】

地域のもので「バーバラハウス」ってすごくのびが良くて、今ちょっと蕪崎文化村の横であれなんです。ああいう感じの物です。だから地域の物を売ったりお土産もおいたり、そして小さなカフェがあったりですが、今の文化村のとこだとお客さんがのぞいてみようという人はいない。わざわざ駅から降りてなんて人はいないから、あれが駅だったらもっともっと広がる様な気がします。「バーバラハウス」に行けてことではなくて、「バーバラハウス」のようないろんなあれをもってるあの味噌汁学

校の発想があれば良いかなと思いました。

【参加者（記念会会長）】

話が大きく駅前構想っていう感じに話が進んでますけど、アザリア会としては是非葦崎の方で73通の手紙のコーナーを設けるというような程度ではなく、もう少し広くアザリアの仲間たちの資料も展示する様な構想をあの中につくってもらったら非常にいいんじゃないかなって思います。そしてこれから勿論73通の手紙をどの様に保存して皆さんに見ていただくかって、そういうのと、これからアザリアの仲間達の色々の資料を市としてもこれからは購入したり寄付をしていただいたり、難しいのであれば複製の様なものを作ったりして、非常に特色のある図書館を造っていただけたらと思います。そしてアザリア資料のある図書館として全国的に知られていく様な特色ある葦崎の図書館を駅前に造ると。これは素晴らしいことと思うわけで、その中に今言った様な物産展ももちろん必要ですし、農コーナーも必要だと思います。この間地学をやっている方にちょっと話をする機会があったのですが、葦崎は自然に周りに山々があって自然をアピールするのに非常に良い場所だと、ですから駅のあそこに葦崎の自然博物館のようなものを造って、登山なり色々してきた人たちがそこに寄って帰るとい様な場所にしたら非常にいいのではないかと、この自然を利用しない、そんな損なことはないよという話を聞いたので、自然博物館とアザリアの資料のある特色のある図書館と文化の殿堂といった建物に出来たら非常に素晴らしい駅前の拠点施設になるのではないかと考えますが、いかがなものでしょうか？

【参加者】

花巻の駅前に林風舎ってありますよね、あそこは駅前だからすごいんですよ。林風舎っていうのは宮沢賢治のご親戚が経営しているグッツとかのお店なんですけど、駅前にあるっていう立地がすごく人がたくさんいて。

【参加者】

駅がこじんまりしているからいいんだよね。葦崎の様な対駅とはちょっと違う。それから先程の清水先生の説明に補足いたしますと、ほかのお友達の手紙を全部加えますと、183通か184通になるのかな、更に別の友達からの手紙もありまして、全部で200通くらいになります。だから、ちょっとした友情図書館にもなるんです。そしてそれがそれぞれに時代時代の地方地方の情勢を伝えてきている内容がありますので、文化的な意味ではかなり有用な手紙が展示できることと思いますよ。

【市長】

お二人が言っているのは今の建物を残して、今の建物を利用する方向でのお話ですね。

【参加者】

広いフロアをいかに活用するかっていう活用の中でそういったことを。

【市長】

さっき林さんが言ったように潰して建て直すってなると、今度はいつ建たるか？買っておくことは出来ますが、いざ建てるとなると今度は難しいですね。

【参加者】

20年も先となると私なんか見られない。

【市長】

図書館の基金は、今6億5千万しかない。

【参加者】

先程、清水先生がお話したアザリアの鳥取の倉吉という所でカワノさんって方がいて、アザリアの町音楽祭を20何年間やっていて、二ヶ月間ぶっ続けで文化ホールみたいな所で色んなことを文化的活動をやっている所もあるし、また栃木県のサクラ市はコスゲケンキチさんの故郷で、そこは今研究が始まったばかりで、しばしはこちらを訪れて資料を見たりとかしてるんですけども、とにかく宮沢賢治の手紙73通とコスギケンキチ・カワモトヨシユキなどの手紙が全部180通ここにあるんですよ。他のところから資料を借りて貰ってとか言ってますけど、今ある資料で十分出来るし、それを見に来たいって人たちが研究の面でも沢山いると思うのです。だからそういう点でも注目されるものではないかなと思います。とにかく早く造ってもらいたいと思うのですがね。そういう内容に拘る訳ではなく、ただセキュリティの問題とか空調の問題とはあると思いますが。

【市長】

本物を飾るとなるとセキュリティの問題もしっかりやらないとならないし、レプリカみたいな物を作って本物はどこかに飾っておいてもらって。

【参加者】

それは、そういうことになると思いますよ。

【参加者】

展示はレプリカになると思うけど、本物も紙がとぼれそうになってきているから、開館までに少しずつでも表装しないとしない。一つ3万円以上かかるから、それは来年の当初予算で200万円位づつやってもらえれば。

【市長】

教育委員会に相談して。

【参加者】

それは寄贈とか寄託とか方向はともかくとして、全面的にお願いすることになる訳ですから。今、手紙とかアザリアっていう、全国的に十部もないような作った雑誌についても紙がボロボロになって、そういうものについても、展示に耐えられるようなかたち半永久的に保存出来るような予算化、200万もあれば出来ると思うのですが。

【参加者】

来年度の当初で200万位、順に盛っていったかかないと開館に間に合わない。

【参加者】

だいたい200万近くはかかると思います。

【参加者】

あと、それともう一つは、保阪嘉内が作った短歌なんか、千数百首なんてあるんですよ、そのノートが十冊くらいあって、それをいちいちコピーなんかとっていくと紙がバラバラになるので、スキャナで取り込んでもらう作業をしてみたんですけど、まあ時間もかかるんですけど、1冊の日記帳をやるのに3、4万スキャナだとかかる。一枚200円とか300円とか、それが100ページとかあるからですね。そこに短歌が数百首ある訳ですよ、で研究者が来てそれを見て「これは素晴らしいから是非それを提供してもらいたい」って言うのですが、何回も何回もコピーなんかとっていると困るからデータ化ってことも必要かなって思っていますけども。とにかく膨大かつ研究に値する資料を残

されているという、単なる古本って考えただけでもすごい古本がいっぱいありますよ。そういうような点で準備もしていけないといけないなって、是非そういう点でもご協力お願いします。

【参加者】

今の話のデータ化っていうのは、取り込みの費用だけでも、6億あるという図書館の寄金の中から借りてでも。せつかく今まで守ってきた物を広く皆さんに見せてあげたいなあって思うんだけど、ボロボロになったりどこかにいっては困る。少しお金かかってもそっちの方へまず手をつけていただかないと。

【参加者】

図書館を造るより先かもしれない。

【参加者】

平行でね。改装するにしろしないにしろ、それはプランが立つのは一年位かかるでしょうから。その間に平行して先行投資みたいな形で資料の保存というか。

【参加者】

ただし、市民の中には図書館の説があるし色々な説があるし主張があるから。

【参加者】

バックヤードは潰してしまえば屋根付の子供の遊び場が出来てしまう。

【市長】

3千坪もあるんだからバックヤードは使わなくても広いものになる。

【参加者】

屋上を庭園にするとすれば、今使っている駐車場が3階と4階ですか？今の半分以上ね、上の方が駐車場になっているから、それがなくなるとすれば下の駐車場も使わないとならない。今のルネスさんの後を使うとすれば。

【参加者】

今日はたまたまアザリア会の話になっているけれども、市民全体から見れば色々な希望の方がいらっしやるからね。そういう人たちの大方の意見をまとめて、そしてこれはって順々にやっていくことだから、まだ相当時間がかかる。

【市長】

さっきも言いましたように、企画財政課の方で色々市民の声を聞いて、パブリックコメントしたりなんかして最終的にはこういう方法でいきますって言って9月の議会で承認いただければそこで決定されるって事ですね。

【参加者】

建物は使っていないと老朽化が進むのが早いので、早く決めて元気に活力入れてやらないと建物自体がもたない。

【参加者】

それは広く公論に決するのはいいけれども、裏の影の方で図書館の方に30万か50万位つけて。

【参加者】

でも市民は誰も反対しないと思いますよ。ここまで皆頑張ってるね、皆今運動しようって子供たちが生まれる前からやっているのだから。

【教育課長】

図書館の関係、教育委員会として林さんや滝田さんに前に作ってくれた構想があるんですけども、今これからあの跡地をどうするかとうことは当然出てくるんですが、更地にするか、そのまま利用するかと。教育委員会でも近々構想委員会を大勢ではなくて、前回入っていた人や一般の公募の人にも入ってもらって何人かでもう一回作り直す。その中で9月頃のあの跡地をどうするかっていうことが出たらそれに合わせた図書館づくりを検討していくと。その中に今言ったようなかたちの中で、当然それにまつわる保阪先生の物とかあらゆる物もある程度入って、どういう特徴がある図書館づくりをするかということを構想委員会の中で検討していただくと、そんなかたちで今後進んでいくということですので、また、ぜひその時にはお力を貸して頂きたい。あと、保阪先生が持っている保存・修復の関係ですけども、教育委員会では今あらゆる物が個人で所有している物がいっぱいあります。それでまず修正の補助とか出しているのが、まず市の指定文化財に、例えば寄付していただければ市でやりますけど、そうでなければ市の指定文化財にしてその中で今度は手紙なんかは書齋の方へ入ると思うんですが、その部で市の指定文化財ですよと、そうすると保存とかそういう物については半分、二分の一以内の補助をするってことになってますから、その中で補助すると、そういうかたちで今は市の指定文化財は全部そんなかたちで進んでいますので、今言ったように今後どうするか十分検討しないとならないのですけど、個人の持っている物をそっくり直すから市で補助をと言ってもなかなか、ここは全部いいですけど、それ以外にもいっぱいありますから、そういう方々の話もできるから、出来れば指定文化財に指定していただければ文化財の審議の中で検討して、なればそういう制度も利用できるかと。

【参加者】

市の指定文化財って道と寄贈って道があるんですね？

【教育課長】

そうです。

【参加者】

寄贈ってなると全額。

【参加者】

菫崎で今まで遅れているのは、お客さん呼ぶってことかなって思って。お客さんを呼ぶ物はあるんですよ。菫崎はいい町なので皆さん早く来てくださって言えるような場所になると一番いいなと思いますけど。

【参加者】

今のお話を伺った、これはやはりさすが皆さん上手いこと考えていらっしゃるなと思いました。是非その進行を宜しくお願ひしたいと思いますよ。

【市長】

まあ、そのうちに、菫崎の宝ってようなものでしょうから。

**【参加者】**

宝を分析するとどうですかね？武田氏に関係する、葦崎の町の古い宿場町のことに関係する、それから先程でした、小野さんとか小林さんのような方の関係する、他にはどんな資料があるんでしょうか？

**【参加者】**

6月1日から岩手大学で展示会がありますアザリア作品ということで、保阪家からも本当に極一部ですけど、手紙で言えば七つくらいで、後は賢治から貰った本だとか、そういった物を出すんですけども、私たちは31日、1日と10人程で訪れてみますけど、オープニングから参加するってことになりましたが、非常に岩手でも注目されて、私たちも共催になっています。主催が岩手大学で共催アザリア記念会ということになっています。できれば開催中にでも市の関係者の方でも一緒に行って頂ければ雰囲気が分かるんじゃないかなと思います。岩手大学に行きますと、保阪嘉内と宮沢賢治の写真が飾られていて、そういうようなことも取り組んでおりますし、なおかつ岩手県の奥州市っていう所にそこから出された宮沢賢治の手紙をパネルにして贈呈するって式の計画もありますし、そんなことで。

**【参加者】**

もう一点、来年になると思いますが、盛岡の町の中に手紙館っていうのがあって、その手紙館でも是非展示させて下さいって言うね。むしろ葦崎よりも盛岡の方で盛り上がっている。葦崎という名前があるのだから葦崎も真っ先にやらないと。頑張ってもらいたい。

**【市長】**

一応、皆様方の今の要望をお聞きした中で、色々また進めていたいと思いますので、結論づけるのには今のルネスの問題が結論づいてからになると思います。市民にも色々な声もありますし、アンケートなのでなかにもいろいろな声もありますしね。今日はいろいろありがとうございました。

**【参加者（記念会会長）】**

本日はアザリア記念会を懇談会相手に選んで頂き大変ありがとうございました。思いを語らせて頂きましたが、わがままな要求もありますが、大きい希望もありますけど、是非宜しくご理解を頂いて実現して頂けますように宜しくお願い致します。ありがとうございました。